



Michigan Newsletter

November 2024

No.2

ミシガン経済交流駐在員

経済交流

1. いざ、姉妹州でビジネス展開！
2. 在デトロイト総領事館 進藤総領事退任レセプションでの近江の地酒プロモーション

ページ 1～2

教育交流

1. 甲賀市の中学生の皆さん、ようこそミシガン州へ

ページ 2～3

草の根交流等

1. 世界に誇る「THE シガパーク」を目指し、ミシガン州視察！
2. 2つの都市が姉妹都市になる瞬間！

ページ 3～7

経済交流

1. いざ、姉妹州でビジネス展開！

今月は、ビジネス展開や販路開拓のため、県内の2企業のミシガン州訪問がありました。駐在員はミシガン州経済開発公社の企業誘致担当者と協力し、米国内企業との面会や関係団体とのミーティングの設定、視察先のアレンジや同行等のサポートを行いました。

面会を行った米国企業担当者は、普段からミシガン州経済開発公社とつながりが強く、駐在員およびミシガン州経済開発公社の仲介でミーティングが実現したことについて大変好意的に受け止めていただきました。

また訪問した県内企業からは、滋賀県という公的な機関のサポートを受けているという意味で、ビジネス展開の際のイメージアップにつながるのとことで、駐在員同行に大変感謝いただきました。

56年におよぶ姉妹県州の歴史は、人と人との信頼関係で成り立っており、ビジネス展開においても大きなメリットがあります。アメリカでの事業展開の足がかりとして、ぜひ姉妹県州関係を活用ください！



【駐在員によるビジネス支援】

県内企業より、ミシガン州(広くアメリカも含む)でのビジネス展開・販路開拓等について相談があれば、駐在員はミシガン州に関する情報提供や関係者の紹介、ミシガン州を訪問して市場調査等を行う場合の訪問先・視察先の調整等のサポートを行っています。

なお、湖南省においても、滋賀県誘客経済促進センターに駐在している県職員等による支援を行っています。

滋賀県国際課 HP <https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/kokusai/10839.html>

2 在デトロイト総領事館 進藤総領事退任レセプションでの近江の地酒プロモーション

ミシガン州とオハイオ州を管轄する在デトロイト日本国総領事館の進藤総領事が離任されることに伴い、11月13日に退任のレセプションが行われました。進藤総領事は、2021年7月に着任され、2023年9月ホイットマー州知事の滋賀県訪問の際の同行、また、近江の地酒プロモーションのサポートなど、滋賀県とミシガン州の交流発展に多大なるご理解、ご支援をいただきました。

開会の挨拶では、40年近いキャリアの中で、大変やりがいのある楽しい任務だったこと、退任後もミシガン州、オハイオ州との関係は尽きることなく大切にしていきたいことなどに触れられ、会場は大いに盛り上がりしました。



駐在員はレセプション会場にて近江の地酒をPRする機会をいただきました。ミシガン州内での近江の地酒のプロモーションは2023年1月から行われ、2024年3月より本格的な流通がスタートしており、レストランでの提供や店舗での取り扱いが少しずつ始まっています。



現在州内で流通しているのは2つの酒蔵から4銘柄ですが、今回は、これから州内での流通を目指す酒蔵からの6銘柄を紹介しました。参加者からは料理との相性や特徴、ラベルのデザインなど様々な質問いただき、近江の地酒の種類の豊富さと魅力をアピールする機会になりました。

教育交流

1. 甲賀市の中学生の皆さん、ようこそミシガン州へ

11月8日～16日、甲賀市主催「甲賀市・ミシガン州中学生国際交流事業」に参加する甲賀市の中学生の皆さんが州内の姉妹都市を訪れました。甲賀市はミシガン州内に姉妹都市が3つあり、今回は、デウィット市・デウィットチャータータウンシップに9名、マーシャル市に5名の中学生が滞在し、パートナーの中学生の家庭に滞在しながら学校に通い、現地での生活を通して交流を深めました。



11月11日にデウィット中学校で歓迎の朝食会が開催され、駐在員は来賓として参加させてもらい、交流を支えてくださる皆さんへの感謝を伝えるスピーチを行いました。デウィット市長はじめ市関係者や学校関係者の皆さんは交流に大変理解が深く、和やかなムードで会は進み、甲賀市の中学生は英語で、デウィット市の中学生は日本語でそれぞれ自己紹介するほほえましい場面もありました。甲賀市の中学生の皆さんにインタビューしてみると、「3歳から英語を勉強していてチャンスだと思って応募した」「英語が大好きで、参加を親も応援してくれた」



と参加動機を教えてください、その真っすぐな気持ちに、20 年以上前に中学生だった駐在員も心が洗われました。また、「ホストファミリーとミシガン湖を見に行った」「買い物に行った。家でペットと一緒に過ごすのも楽しかった」など充実した週末の話も聞くことができました。

この事業は 2005 年から継続して行われていましたが、コロナウイルス感染症の拡大により 2020 年から一時ストップし、昨年はミシガン州から甲賀市への派遣のみ(甲賀市からの派遣なし)という形で再開されましたが、ついに、今年度は相互派遣が再開することになりました。言葉や文化は異なってもお互いを理解し友情を深める体験をした甲賀市の中学生の皆さんのこれからの活躍が楽しみです。



後日いただいたお礼状

草の根交流等

1 世界に誇る「THE シガパーク」を目指し、ミシガン州視察！

世界の公園の先進事例を調査し、「THE シガパーク」の魅力を高めるため、滋賀県職員 4 名が 11 月7日～8日にミシガン州内の公園等の視察を行いました。駐在員は、視察先のアレンジや事前調整、当日のアテンドを含め全面サポートしました。

視察を行った 3 か所は、ミシガン州と滋賀県にゆかりのある場所ばかりです。ここでは姉妹都市関係を中心にレポートします。

マイヤーガーデン(正式名称 Frederik Meijer Gardens & Sculpture Park)

マイヤーガーデン園長をはじめ役員の方々が勢ぞろいで出迎えていただき、温かな雰囲気ですべての視察がスタートしました。

マイヤーガーデンのあるグランドラピッズ市はジェラルド・R・フォード大統領ゆかりの街としても有名なミシガン州第 2 の都市で、近江八幡市と姉妹都市です。グランドラピッズ・近江八幡姉妹都市委員会は活発に活動されており、メンバー4 名も視察に同行してくれました。

専用のトラムに乗り込み、副園長による解説で53ha におよぶ広大なガーデン内を視察。野外彫刻や日本庭園のほか、県での取り組みのために、普段は入れないバックヤードなども含め案内していただきました。



日本庭園の中に、盆栽の展示や枯山水庭園があります。
この枯山水庭園を囲む土塀の瓦はなんと近江八幡市産だそうです。



今回の訪問時にはなかったのですが、グランドラピッズ市の7つの姉妹都市を紹介する展示もあり、近江八幡市の紹介として、植物など自然の素材を使った長命寺のレプリカがあるそうです。

2018年の姉妹県州提携 50 周年を記念し、三日月知事と当時のスナイダー・ミシガン州知事が植えた桜の木がこんなに大きくなっていました。



【マイヤーガーデン】

グランドラピッズ市発祥の中西部最大のスーパーマーケットチェーン店であるマイヤーが出資し、創業地に造成した大型植物・美術庭園。複数の野外彫刻があることでも有名です。

マイヤーガーデンと滋賀県のつながりは深く、2011 年のマイヤーガーデン園長の滋賀県訪問にさかのぼります。2015 年、マイヤーガーデンにて滋賀特別展が開催され、ミシガン州内外から約 38 万人が滋賀の美術品や文化財を鑑賞しました。また、同年に日本庭園が開園し、三日月知事が当時のミシガン州知事を招待し茶会を開催しました。さらに、2019 年には 50 周年記念事業の一つとして、滋賀県のアール・ブリュットの作品を展示するなど、姉妹交流の舞台になっています。

マイヤーガーデン公式 HP(英語)<https://www.meijergardens.org/>

克蘭ブルック ハウスアンドガーデンズ

デトロイト郊外の代表的な高級住宅地のあるブルームフィールドヒルズ市の大通りから一本道をそれ、並木道を走ると赤レンガ造りの美しい建物が見えてきます。克蘭ブルック内の国定歴史建造物等の発信を行っている克蘭ブルックセンターの責任者に施設の説明や克蘭ブルックハウスや美術館の案内をしていただきました。

克蘭ブルック内の各施設は独立して経営等を行っており連携が少ないことから、施設同士の交流を促す「リンクランブルック」という新しいモデルを推進中とのこと。「THE シガパーク」との共通点に話が弾みました。



【克蘭ブルック・ハウスアンドガーデンズ】

克蘭ブルックは新聞社経営で財を成した実業家が子供たちのためのカントリー・ハウスを作るため農地を購入したことからはじまり、以降、小学校、女子高校、男子高校、教会、科学館、美術館といった公共施設が作られ、克蘭ブルック・ハウスアンドガーデンズはその敷地内にある創始者の旧邸宅およびその周りの庭園を指します。庭園には日本庭園も含まれ、国土交通省による海外日本庭園再生プロジェクトも実施されています。

敷地内の歴史的建造物である克蘭ブルックハウス内で、近江の茶をPRするワークショップを開催していただくなど、滋賀県の活動にも協力いただいています。

克蘭ブルック・ハウスアンドガーデンズ公式HP(英語)<https://housegardens.cranbrook.edu/>

ジョージ・ジョージ・メモリアルパーク／セントクレア湖メトロパーク／ウォルター＆マリーパーク

野洲市と姉妹都市であるクリントンタウンシップの姉妹交流関係者が公園・レクリエーションを担当していることをきっかけに、マコーブ郡内の公園の視察が実現しました。当日は郡職員2名も駆けつけていただき、3名で3つの公園を案内していただきました。

クリントンタウンシップのジョージ・ジョージ・メモリアルパークは、その芝生や遊具、池だけでも魅力的ですが、クリントン川が流れており、長年かけて汚染を取り除いてきたこと、また、カヤックを通じた広域的な観光振興、公園を中心としたトレイルで医療施設をはじめコミュニティをつなぐ計画など興味深い話題がありました。

また、ハリソントウンシップのセントクレア湖メトロパークは、水辺の環境づくりや外来植物への対策など、滋賀県の取り組みとの共通点が多く、ニュー・ボルティモア市のウォルター＆マリーパークは、遊具のあるプレイグラウンド、スポーツ施設、釣り桟橋、ボート桟橋などが一体となっており、風光明媚な公園を楽しむ市民の姿を間近で見ることができました。



ミシガン州での視察 おすすめポイント

その1 姉妹交流の歴史が培った、顔の見えるネットワークが視察を支えます！

州政府や姉妹都市などの行政機関だけでなく、姉妹交流関係者は様々な企業や団体に関わっており、様々なテーマに対応可能です。

海外視察でアポイントを取ろうと該当機関に連絡しても放置される、話が進んでいたのに連絡が突然来なくなる、といったこともよくあるそうですが、ミシガン州では信頼関係、顔の見える関係で成り立っているので、安心して視察の計画が進められます。



その2 ミシガン州と滋賀県との類似性が生きる！

そもそもミシガン州と滋賀県は湖つながりで姉妹県州協定を結びましたが、湖だけでなく川や内湖などの自然とのつながり、そこから発展してレジャーや農業など、政策に類似点や同じ問題を抱えているということが多々あります。

今回の視察でも、視察先の担当者が滋賀県の政策のことを大変興味を持って聞いてくださり、滋賀県側だけでなく、ミシガン州側にとっても双方にメリットがあるといえます。

その3 視察後のフォローアップが充実！

人と人のつながりで作るミシガン州視察は、視察中だけで終わらないのが魅力です。事例を取り入れたい、同じようなことをやりたい、と思った時のフォローアップもバッチリです。

今回対応いただいた、どの視察先の担当者も、追加の質問や関連資料の送付などのサポートは大歓迎でした。どんなに良い先進事例を視察したとしても、それを実際に進めようとしたときに視察先の協力を得られるかどうかは重要ではないでしょうか。その意味で、快くフォローアップしてもらえるミシガン州での視察は大変おすすめです。

今回の視察を通じ、滋賀県からミシガン州に訪問団が来る、というのはほとんどない力があり、どこへ行っても大歓迎していただけるということを実感しました。

おすすめポイントに加えて、とても楽しく、心地よく視察ができること間違いなしです。海外視察の機会があれば、ぜひ視察の候補先に入れていただければと思います。



2 2つの都市が姉妹都市になる瞬間！

ミシガン州の州都ランシング市は、大津市を含め世界中に7つの姉妹都市がありますが、11月21日にトルコのエスキシェヒルとの間で新たに8都市目となる姉妹都市協定を締結しました。10年以上前に在デトロイトトルコ総領事と当時ミシガン州立大学にトルコから留学中だった学生との間で発案。その後、お互いに委員等を派遣し、コロナウイルスや選挙の時期などを乗り越え、ついに協定締結に至ったそうです。

エスキシェヒル市長団からの「政府間が友好関係を保てなかったとしても、同じように家族や友人がいて、同じ経済問題を抱えている同じ市民同士が友好を深め、新しい文化に触れることは、市民の可能性や視野を広げてくれる大変価値のあること」というコメントは、常に姉妹交流関係に支えられ仕事をしている駐在員にとっては、原点に立ち返るような思いでした。

ちなみに、ミシガン州内の27都市が日本と姉妹都市協定を結んでおり、そのうちの13都市が滋賀県内の自治体と姉妹都市関係を結んでいます。ランシング市と大津市の姉妹協定が結ばれたのは、アナーバー市と彦根市の姉妹協定とともに一番古く1969年。1994年以降は滋賀県とミシガン州の都市間での姉妹都市は生まれていないため、2つの都市が姉妹都市になる瞬間に立ち会えたのは大変貴重な体験になりました。



ランシング市長とエスキシェヒル市長による記念品の交換

【そもそも姉妹都市とは？】

米国は、欧州からの移民を中心に成立した国であり、ルーツである都市と姉妹関係をもち交流をしてきた歴史がありますが、1956年にアイゼンハワー大統領が提案した市民外交の国家構想「People to People Program」が後押しとなり、一般市民や市民組織が外交の担い手となり、海外の市民と直接交流することで、相互理解と世界平和を達成しようという取り組みが本格的に始まりました。

今日では、日米間の都市と市町村、州と都道府県の間で450を超える姉妹提携が存在しています。アメリカの姉妹都市事業は、ほとんどがボランティア主導である一方で、日本の姉妹都市事業は、一般的に自治体の国際交流部門が公的支援を受けて運営しています。